

六月二十九日

中野区在住の初老の方が来室。住宅を依頼される。住宅の仕事が多くなっている。中途半端はいけない。もっと多く受け容れなければ。

六月三十日

朝屋上菜園で草むしり。汗ばむ位に雑草取りに夢中になってしまった。川合健二に初めて出会った時、川合は五十八才であった。ミカン畑で野良仕事をしている時にとんでもなく良いアイデアが生まれるんだよと教えてくれたのを思い出した。私はアイデアは生まれないが色々と妄想をたくましくする。午後三鷹の植木屋で水蓮、その他買い込んで屋上に植え込む。垣根のクチナシを切つて三階の読書機のワインのビンに生けた。アジサイも切つて地下に四ヶ所程生けてみた。

二〇時サッカーワールドカップ決勝ブラジルvsドイツ。どっちが勝つても構わないが、家内も次女もブラジルを応援しているので、私はドイツびいきでいようとTVを見ているが、凡戦なので三階に上り、何をしてもなく、ボーツとしている。サッカーとか野球とかには全く興味無いのだ。

七月一日

朝、歯医者。下手で不器用なアシスタントがギリギリ何やら、

こねまわして痛かった。十一時世田谷に戻る。世田谷村ミーティング。石山研の全体について再び述べる。N棟S棟世田谷村北九州の機能について。全体的な仕事のペースタイプについて。反応なし。全くなし。十四時個々の仕事の打ち合わせ。スタッフに希望は持てぬが、仕方がない一人でも進むしか無い。ゲートはローマで内省のとばりの内にこもっている。紀行文の形式は崩れ始めた。

七月二日

学部レクチャー。気仙沼唐桑の仕事について。振り返れば膨大な無駄の山だ。しかし、何か一つ作る事でその無駄がただのゴミではなくなる契機が訪れるのだ。作らねば。

今、迷いに迷っている。秋田の玉川温泉にて療養している佐藤健を訪ねるかどうか。秋田はドシャ降りのようでチョツと車では危険なんだが、時が時だけに行つた方が良い様な気もするし、揺れに揺れている。珍しい事だ我ながら。